

リサイクルポート（1次指定）概要 ～ 室蘭港・苫小牧港～

室蘭港は、北海道内浦湾の東端に位置する特定重要港湾で、本州間フェリーを中心とした海上交通の拠点となっている。背後の室蘭市では、既存産業によるリサイクル計画、大学との環境関連技術開発の連携、市及び民間も含めた環境産業推進体制の構築など、「産官学連携」に力点が置かれている。

同港では現在、製鉄所から発生する高炉スラグなどを活用したセメント工場や製鉄所が立地しており、そこから発生するセメントや鉄スクラップなどを取り扱っている。今後、製鉄所などの既存産業が中心となった廃プラスチックを原料としたリサイクル計画のほか、廃自動車、金属くず等の循環資源をリサイクルする新規施設の立地が計画されており、平成14年～17年にかけて操業を開始する予定である。さらに新規リサイクルの取り組みにより、廃プラスチックや金属くずの港湾取扱量の増大が見込まれている。

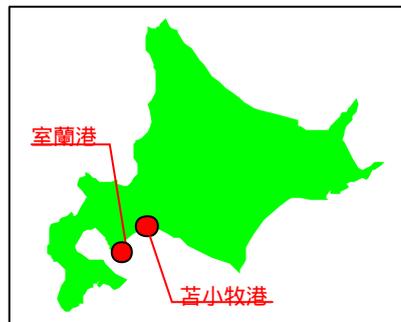
苫小牧港は、北海道南西部の太平洋側に位置する特定重要港湾で、臨海工業地帯が形成されている西港区と流通拠点港湾としての機能強化を進めている東港区からなっている。東港区の背後に広がる苫東地域は、物流機能が充実した我が国に残された数少ない大規模な開発空間の1つであることから、「資源循環型社会形成に向けた苫東地域におけるリサイクル関連産業の展開方針」などリサイクルに関する各種の構想・計画を基に、リサイクル産業の育成や導入が進められている。

同港では、背後の国内有数の製紙工場において積極的に製品化されている古紙が、主に関東方面から搬入されている。また、道内廃家電の半数を扱う計画の家電リサイクル施設及び廃プラスチックリサイクル施設が新たに立地した。さらに、廃プラスチックを燃料とする発電所を東港区に建設中であり、その廃プラスチック燃料は、海上輸送により千葉港等からの搬入が予定されている。

室蘭港・苫小牧港の両港は比較的近距离に立地していることから、それぞれの地域特性を活かし、一体として高度なリサイクル拠点を形成することが期待されている。



室蘭港



苫小牧港